



2008年3月25日発行(季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル6階
TEL&FAX 03-3204-4342 E-mail: npo@hitomachi.org
URL: http://www.hitomachi.org

新米秘書は修行中!

ひと・まち社理事 塩田 三恵子

大河原雅子さんが参議院議員に当選したのは昨年の7月。私が秘書として永田町・参議院議員会館に通勤するようになって7ヶ月たちます。「忙しいでしょう?」「何しているの?」「国会はどうなっているの?」とよく聞かれますがいつも返事に窮しています。

朝家を出るのは7時前後、8時からの会議等に議員と一緒に参加、または代理出席することから始まる一日は確かに忙しいです。資料を読んで整理したり、スケジュールの調整、陳情者や電話の対応などなどで時間はあっという間に過ぎてしまいます。国会の運営は地方議会と違って日程が定まらず、本会議、委員会の開催は直前に決まることが多い上、次々に会議や勉強会、集会への参加要請、視察などが入るのでスケジュールは変更につぐ変更の毎日で、明日の事もよく分からないことが度々です。

政治の動きもうっかりしているとやり過ごしてしまうことがあります。台風の目の中で無風状態になっている感覚です。情報は与えられません。必要な情報は収集するしかありません。市民ニーズにはアンテナをはり、党内議論の様子や他党の動き、新しい政策立案のための情報収集などなど新米秘書は、まだまだ修行の身です。調査依頼は、そんな私の訓練にもなっています。

政策を実現するための法案はテーマ別の作業

チームがつくられ集中議論されています。大河原さんが所属するチーム会議には私も同席します。最初に体験したのは「子ども手当法案」づくりでした。実現すべき内容を整理した後、参議院調査室・法制局のスタッフの参加を得て法案作成をしていきます。多忙な議員の会議は予定どおり始まり、予定どおり終了し、とにかくてきぱきと結論が出されます。疑問やあらたな課題が出されると「では次回に」となり、次回はその課題についての結論案が提示され議論していく・・・といった流れで、会議出席には事前準備が欠かせません。

法案は提出の可否についての党内議論を経て承認されます。子ども手当法案は168国会で参議院に提出しましたが審議未了で廃案となりました。現在は169国会に再提出するためにさらなる精査を行っています。

今の私にとってローカルな現場での体験が何よりも一番の財産になっていることを痛感しています。生活者政治の担い手として貴重な存在となりつつある大河原雅子さんの発想(生活者の発想)を形にしていけるのが「しごと」だと考える今日このごろです。厚生労働委員会での2回の質疑と通常国会での代表質問の組み立ても大河原さんと一緒に行いましたが、地域の方々から激励の電話を頂きこそばゆい想いと同時に、「いつまでも修行の身ではいけない」と密かな決意もしています。

